

ペルー産アボカドが世界を席卷

[FreshFruitPortal](#) 2025年11月10日

持続可能性と小規模生産者が世界のトップへの躍進を支える

現在はメキシコがハス種アボカドの世界最大の輸出国であるが、**20万エーカー**(約9万ヘクタール)以上の栽培面積と、ほぼ全てが小規模ながら**3万の生産者のネットワーク**を有するペルーがそれに迫っている。

ペルーの勢いは止まらない。同国の輸出量は**69万2千トン**に達し、最近のフィリピン市場の開放により、輸出先は**世界70カ国**に及んでいる。

ペルー・ハスアボカド生産者協会(ProHass)のアルトゥーロ・メディナ氏は、農産物データ会社のフルクチュアンテ社が主催したウェビナーで、「これは単年の取組みの結果ではなく、生産者、輸出業者、政府、技術協力機関による**数十年にわたる共同の取組み**によるものである。今日、ペルー産アボカドは品質、持続可能性、競争力の代名詞となっている」と述べた。(以下「」は同氏の話)

ProHassは現在、ペルーの農産物輸出産業の中核を担う69の生産・輸出企業を結集している。メディナ氏によると、同協会の活動は商業的な販促活動にとどまらず、技術研修、農業技術の革新、小規模生産者との連携、国際市場における堅固なペルーブランドの確立にまで及んでいる。

ヨーロッパ: ペルー産アボカドの主要輸出先

メディナ氏は、**ヨーロッパが引き続きペルー産ハスアボカドの主要市場**であり、シェアは45%に達していると指摘した。2025年だけでも、ペルーはヨーロッパ大陸に42万8千トンを出荷しており、これはヨーロッパの消費量の40%以上を占める。

メキシコが米国市場での勢力を維持する一方で、ペルーの生産者はヨーロッパとアジアの市場で事業を確立することに成功し、輸出先の多様化とリスクの軽減を図っている。

ピークシーズンである6月から8月にかけて、**ペルーはヨーロッパで取引されるアボカドの最大75%を占める**。主要な輸入国はオランダであるが、そこからフランス、ドイツ、イタリア、ポーランド、ロシア等、他国に転送されている。スペインも、消費と他のヨーロッパ市場への再輸出の両面で拡大する市場として台頭している。

「過去10年間でペルーのヨーロッパ向け輸出は268%増加した。これは市場がペルーの果実の品質と輸出業者の専門性を高く評価している証しである。」

米国: ペルーにとっての成長市場

米国市場では、メキシコ産のアボカドが供給の主体(総消費量の75%)であり、カリフォルニア州産がこれに続き、ペルーは第3位の供給国である。

しかしながら、**ペルーからの米国向け輸出は成長を維持しており**、関税や直接的な競争にもかかわらず、2025年のペルー産アボカドの米国向け輸出は54%増加した。

「このような条件の下で米国市場に大量に出荷することには犠牲を伴ったが、そうしなければヨーロッパ市場で供給過剰を引き起こすリスクがあった。我々の輸出業者は責任ある姿勢と長期的な視野を示した。」

この戦略は、メキシコ産が不足する時期に、**ペルーが信頼に足る持続可能な供給国としての評判を維持**することを目的としている。

アジアでの拡大

この業界は最近、フィリピンの市場を開放し、これによりペルー産アボカドの輸出先は70カ国に達した。

メディナ氏は、**業界の焦点がアジア太平洋地域にある**ことを強調した。中国、日本、韓国は既に確立された市場であり、台湾、ベトナム、オーストラリア、ニュージーランドが次の標的である。

「我々はアジアに非常に熱心に取り組んでいる。例えば日本は品質と外観を重視する洗練された市場であ

る。今年は日本への輸出が75%増加し、ペルー産果実に対する非常に肯定的な評価を得ている。」

距離や物流の課題を認識しつつ、最適な状態で果実が着荷するよう、収穫後の管理、選果、コールドチェーンの信頼性向上に取り組んでいるとメディナ氏は述べた。

「アボカドが良好な状態で届けば、消費者は再び購入し、我が国の評価も高まる。」

ペルーの「緑の黄金」の成長見通し

ペルーのアボカド産業は、チリ、アルゼンチン、カナダ等、南北アメリカ市場への拡大を目指している。メディナ氏は、チリの1人当たりアボカド消費量は年間8.6kgに達しており、世界でも最も高いと強調した。

「ペルーにとってのチリは、メキシコにとっての米国のような存在である。成熟した近隣市場であり、製品に対する理解度が高い。」

アルゼンチンもそれに劣らず重要であり、同氏は同国市場を有望な輸出先と位置付けた。「アルゼンチンの消費者は小玉に慣れているが、プロモーションに投資すれば中玉や大玉の果実を導入でき、収益性を高めることが可能である。」

同氏によると、カナダとコスタリカもペルー産アボカドの輸入が大幅に増加しており、商業的多様化を後押ししている。

将来への展望

メディナ氏は、業界の成長は大企業だけでは説明できないことを明確にした。ペルーの3万の生産者のうち、2万2千以上は栽培面積が1ヘクタール未満である。

「多くの農場は、農業が経済的基盤となっているカハマルカ、アヤクーチョ、ワンカベリカ、クスコ、フニン等の県にある。」

同氏は、栽培面積がわずか0.5ヘクタールであつたり果樹本数が15本しかない生産者も存在するが、彼らはそれでも国の農産物輸出産業に貢献していることを誇りに思っていると述べた。

「その熱意は貴重であるが、我々は技術支援、機械化灌漑、研修によって彼らを支援する必要がある。」

「重要なのは、より多く植えることではなく、より良く生産することである。」現在の平均収量は1ヘクタール当たり4〜5トンであり、目標は7〜8トンである。

メディナ氏は、ペルーの世界的リーダーシップには責任を伴うとの明らかなメッセージで締めくくった。同氏は、世界的な競争は激しく、プレミアムな果実と責任あるサプライチェーンを保証できる国だけがその地位を維持できるため、国内の生産者と輸出業者は品質や持続可能性を軽視することはできないと話す。

「ペルー産ハスアボカドは、1つの温帯作物を、持続可能性の世界的な象徴かつ国家的な誇りに高めるといふ、並外れた成果を成し遂げた。」

執筆者： マカレーナ・ブラボ